

古今東西 くんぐん 行きます!

郡市長がさまざまな現場を訪問し
市民の皆さまの活動の様子な
どをお伝えします



本年度は、海外へ向けて仙台の魅力や取り組みをPRする機会を多くいただいております。今回は、タイ・バンコクと、米国・ニューヨークを訪れた様子をお伝えします。

観光再生元年の皮切りに

4月29日から5月3日にかけて、早期の交流人口の回復・拡大に向けて、タイの首都バンコクを訪問しました。バンコクでは、観光関連のイベントや商談会に出席したほか、タイ国際航空や日系企業などを訪れました。

消費者向けのPRイベント「日本東北観光フェア」には多くの

お客様が来場し、私たちの説明にも熱心に耳を傾けてくださいました。タイ国内における訪日意欲の高まりを肌で感じたところです。

また、タイ国際航空では、仙台―バンコク間定期便の

早期再開を要請してまいりました。交流人口の拡大を目指すに当たって定期便の運行は不可欠であり、一日も早い再開に向け、具体的な協議を進めてまいります。

アフターコロナの時代となった今、さらなる経済活性化のためには海外との交流回復が大変重要だと認識しております。今後も観光再生に向けて、東北一丸となって取り組んでいきます。

防災環境都市の役割を再認識

5月19日、ニューヨークの国連本部で行われた「仙台防災枠組実施状況の中間評価にかかる国連ハイレベル会合」の分科会に登壇しました(会合の内容は6ページ参照)。東日本大震災以降、より良い復興に向けて市民の皆さんとともに防災・減災に取り組んできたことを、このような重要な会議の場でお伝えできたことは、非常に意義深いことだと感じています。

会合では、参加者間で「SEND AI」という言葉とともに熱い議論が交わされました。災害は今なお世界各地で発生しており、防災・減災に終わりはありません。引き続きさまざまな主体と連携して災害に強いまちづくりを進めながら、震災の経験と教訓、そしてそこから生み出された知見や技術を、広く国内外に発信していくことが本市の重要な責務だと実感しました。

同日、平成13年に発生したアメリカ同時多発テロ事件の追悼施設「9・11



▲9.11メモリアルミュージアムでは、事件の凄惨さとともに、平和への願いを強く感じました

メモリアルミュージアム」を視察しました。事件当時の映像や破壊された消防車などの展示があり、事件の悲惨さや大切な人を突然失った悲しみが生々しく胸に響いてきます。人々の記憶を風化させない取り組みとして参考になることも多く、本市で検討を進めている中心部震災メモリアル拠点の整備などに生かしていきたいと思えます。

このほか、スタートアップ支援企業との意見交換や、ニューヨーク宮城県人会の皆さんとの交流を行いました。経済施策などについてグローバルな視点でのお話も伺うことができ、今後につながる関係を築くことができました。

国際社会での存在感向上を

今回の海外訪問は、観光や経済、防災分野の取り組みに手応えを感じるものとなりました。今年には本市でG7仙台科学技術大臣会合も行われ、科学技術を活用したまちづくりなどについて各国の参加者にPRしたところです。

今後、さまざまな機会を捉えて国際社会へ仙台の魅力や取り組みを発信し、各分野で本市の存在感を高めるとともに、今回訪問で得たものを市政に還元できるよう努めてまいります。



▲ブースを訪れた方に、仙台・東北の魅力をPRしました

